

本照寺だより

日蓮宗 常栄山

今年のお会式は10月17日

■「お会式」はお盆の「お施餓鬼」に比べ、法要に参列するお檀家の方々が明らかに少ない状況が続いています。

「お施餓鬼はご先祖さまの供養だから参列するけれど、お会式はよく分からないから参列しない」と、そんな方が多いのではないのでしょうか。しかし考えてみてください。ご先祖さまは何によって

救われるのでしょうか？法華経・お題目によって救われるのではないのでしょうか。また、生きている私たちは、どうしたら幸せになれるのでしょうか。この非常に分かりにくい難題に対して、真

正面から取り組まれ、結論を出されたのが日蓮大聖人なのです。ですから、亡くなられたご先祖も、生きています



中分万灯奉納
【露天も13軒ほど出ますよ〜】



立正佼成会万灯奉納
【有志万灯は毎年募集しています】



雨…雨の今年…30人の参加でした

第11回「一泊お山しゅぎょう」

■去る7月23日(木)〜24日(金)の1泊2日にて、第

第32号
厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
(加入者名・本照寺)
発行所
本照寺

ちも、共に救われるお題目の道(幸せになる方程式)と、大きなおおきな遺産を残してください。少しでもその大恩に報いるべく行われているのが、「お会式」なのです。

【法要】午後2時から日蓮大聖人第728遠忌法要と法華加持を執り行います。
【お稚児さん】4歳から10歳くらいまで。ご希望の方はご連絡ください。2千円
【第1回誦文】午後5時から。500円
【万灯奉納・予定】
一、中分・午後7時出発
7時15分頃到着。
一、聖徒有志・7時30分頃到着
一、立正佼成会は隔年ですので今年はお休みです。
【第2回誦文】万灯奉納後。

11回目となる「一泊お山しゅぎょう」が、参加者30人にて行われました。

梅雨も明けての日程でしたが、2日間とも雨…雨。ですが、大改修された本堂の軒下はさすがに広く、カレー作り、また流しそーめんも無事？達成。唯一、高松山登りだけが中止となりました。

時間経過
「しゅぎょう」練習第3回。「豚の命は誰のもの？」
「お経」時間
「お話」時間
「お話」時間
「お話」時間

本堂軒下で「流しそーめん」作りも軒下となりました。

献血の啓発(厚木市仏教会)



8月27日、厚木駅前にて「献血協力の手助け」として5時間、「厚木市仏教会」の幟を立て、14人の僧侶とともに献血を呼びかけました(32人から献血のご協力をいただきました)

「献血にご協力いただきませんか？」
「献血活動は行いました。当日は午後5時、総理が頭を立つという制限つきで献血した。献血イコール注射はイヤ！」
「注射はイヤ！」
「チク」
「血抜き」です。是非皆
(写真は都高会長と私)

不明檀家

(左記のお檀家は転居先不明等にて「本照寺だより」に戻って来ず。お知らせの方はお知らせを…)

- 村井幸雄(林) 石川正勝 和泉念(横浜) 富田定夫 小川敏子(相模原) 田中トキ子 柳沼和江(白根) 半田辰雄(板戸) 小山内ミネ子 菊地豊 杉本明 杉本恒男 武井茂 藤川守 角谷俊美 村井貞夫 杉本 杉本操 世田谷 程塚 世田谷 番地不明 杉本正雄 齋藤 部屋番不明 菊川茂(板戸・受取人様不明)

豚の命は誰のもの？

■初日の「お話」の時間に次のような話をします。

「00君の命は誰のもの？」と、返すと、「僕のもの」との返答があります。更に突っ込んで、「では魚さんの命は誰のもの？」と問うと、「魚さんのもの」と、子供たち。更に、「豚さんの命は？」、「豚さんのもの」と、子供たち。
■「そう、魚さんの命は魚さんの命、豚さんの命は豚さんの命だよね、それじゃあなぜみんな魚や豚を食べちゃうの？」



本堂の中にテントを張りました。子供たちも大騒ぎです。

お手伝いありがとう！

- 佐久間重美・佐久間トシ子・長澤保彦・濱田城司・藤江実香・安藤睦美・鈴木おり絵・長澤香・松野菜穂子・中川伊織(敬称略)

私のお寺は

宗派・日蓮宗

ご本尊・大曼陀羅 (だいまんだら)

ご本仏・久遠実成 本師釈迦牟尼仏 (くおんじつじょうほんししやくかにぶつ)

総本山・身延山 久遠寺 (みのぶさんくおんじ)

宗祖・日蓮大聖人

経典・法華経 主に唱えるもの・開経偈～方便品～自我偈～お題目～宝塔偈

あなたなら…さて？

死んだ後くらいは一人
でゆくりしたい
「…主人と同じお墓には入りたくない…」



今(さい)回は、
西條八十(さいじょうやそ) (古賀政男「誰か故郷」)

■そんな思いを抱いている人もいる？ でしょう、ね。でも何か切ない思いがしますので、そこで

を想わざる」、村田英雄「王将」の作詞でも有名」という詩人と、彼の奥さんのお墓の話をしてみましょう。

雨宿りでの出会いから

■八十さんの奥さんの名前は晴子さん。2人が結婚したのは彼が24歳で、彼女が20歳の時。ある日、俄雨(にわかあめ)にあい、その時に雨宿りをした店で傘を貸してくれた女性が晴子さ

「本照寺」のホームページは「厚木本照寺」で検索してください。

この「本照寺だより」が届かない家はお檀家登録がされていません。墓地があっても「本照寺だより」が届かない方はお知らせください。

んだったといひます。

まことに詩的ともいえる2人の出会いでしたが、貧乏のどん底からの44年間、この夫婦はお互いに支え合って生きました。

■そして晴子さんが64歳になる昭和35年6月1日、奇しくもこの日は2人の結婚記念日なのですが、彼女は夫を残してこの世を去りました。

「わが妻にして、またわが母、またわが恩人なりしひと、ここに眠る。黒髪よ、美しい眼よ。ああ、わが亡きあと、

誰びとか、かくも切に、この稀なる女人を想いでんや」
この詩は、八十さんが晴子さんのお墓に刻もうとした詩です。この詩を読んだだけでも、彼がどんなにか晴子さんを愛し、また頼りにもしていたのかが分かります。

毎朝6時に墓へ

■八十さんは彼女のお墓を東京の自宅から100キロも離れた千葉県松戸の霊園に建てました。それは、晴子さんの妹である美代子さんのお墓がある場所で、彼女が「自分もいつかここに眠りたい」と言っていたからとのこと。

■「われらふたり、たのしくここに眠る。離ればなれに生まれ、めぐりあい、みじかき時を愛に生きしふたり、悲しく別れたれど、またここに、ころとなりて、とこしえに寄り添い眠る」と…

朝の詩(うた)

産経新聞

蛸(ほたる)

徳島県三好市

内田睦旨朗 56

深夜 窓の向こうに
現れた 蛸
一瞬 立ち止まり
二回ほど光を発し
去ろうとしたとき

「君ではないのか」
思わず全身が反応した
四十九日を越えて
もう 旅立つのか
蛸となつて
君は



ふたり 寄り添い眠る

■「われらふたり、たのしくここに眠る。離ればなれに生まれ、めぐりあい、みじかき時を愛に生きしふたり、悲しく別れたれど、またここに、ころとなりて、とこしえに寄り添い眠る」と…

産経新聞「談話室」から

テーマ投稿

「山・海、夏の思い出」

山と海、親子の喜びと永別

主婦 松本志のぶ 69

わが家は元旦に計画を立て、夏休みに1週間登山する。息子3人を連れ富士山、槍ヶ岳、北岳、穂高連峰などを踏破した。息子たちが仕事に就いてからは夫婦で登った。



あと、主人は残り人を登るといふ。三男が「おやじ1人では心配だ、おれも行

11年前、南アルプスで強風と雨により私が体調を崩し下山した。いったん家に帰った

夫は次の年からも登山を続け3000以上の山を全踏破していた。いつも写真の息子を同行

(千葉県四街道市)
平成21年7月31日

